

専門領域別研究発表 | 専門領域別：体育科教育学

📅 2025年8月29日(金) 9:00 ~ 9:59 📍 1301教室(教育研究棟 1街区 3階 1301)

[3a1601-04] 体育科教育学／口頭発表①

座長:米村 耕平(香川大学)

9:00 ~ 9:14

[11教-口-01]

小学校体育における「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」の実態に関する一考察
「テニピン」の可能性の検討を通して

*今井 茂樹¹ (1. 山梨学院短期大学)

9:15 ~ 9:29

[11教-口-02]

バレーボールの授業におけるボール操作能力の指導方法の検討
使用するボールの種類を視点に

*金森 晴香¹、高田 俊也¹ (1. 九州共立大学大学院 スポーツ学研究科)

9:30 ~ 9:44

[11教-口-03]

卓球初心者指導におけるフォアハンドドライブ技術要素の評価基準の信頼性の検討
感覚経験型指導法を卓球指導場面に導入するための事前研究

*陳 仁溥¹、深見 英一郎¹ (1. 早稲田大学)

9:45 ~ 9:59

[11教-口-04]

小学校中学年のゴール型ゲームにおける「転換局面」を対象とした学習の可能性
児童の思考・判断と技能発揮の関係から

*中西 紘士¹、谷山 響² (1. 広島修道大学、2. 広島市立井口小学校)

2025年8月29日(金) 9:00 ~ 9:59 1301教室(教育研究棟 1街区 3階 1301)

[3a1601-04] 体育科教育学／口頭発表①

座長:米村 耕平(香川大学)

9:00 ~ 9:14

[11教-口-01] 小学校体育における「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」の実態に関する一考察

「テニピン」の可能性の検討を通して

*今井 茂樹¹ (1. 山梨学院短期大学)

2017年に小学校学習指導要領解説体育編（文部科学省、2018）が告示され、中学年に「バドミントンやテニスを基にした易しいゲーム」が、高学年に「バドミントンやテニスを基にした簡易化されたゲーム」が新たに例示された。しかしながら、小学校教員からは、「バドミントンやテニスを基にした易しい（簡易化された）ゲーム」（以下、「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」）という例示が曖昧で何を行ったらよいのかわからないため、実施の検討すらできなかったという声が多いことが指摘されている（今井、2024）。

本研究では、「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」に関して、小学校教員がどのようなことに問題を感じているのかについて実態を調査した。そのうえで、全国で実践されている「テニピン」を小学校教員実技研修の場で実施し、「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」の例示種目としての可能性について、小学校教員の意識調査を通して検討することを目的とした。

「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」に関する実態調査の結果から、小学校現場のなかで十分に認知がされていない実態が明らかとなった。また、実践されていない要因について、テキストマイニング分析により、7つに整理された。

「テニピン」実技研修前後における「実践可能」に係る意識の変容については、高まりがみられた。小学校体育において「テニピン」であれば「バドミントンやテニスを基にしたゲーム」として、実践の可能性を検討できることが示唆された。

2025年8月29日(金) 9:00 ~ 9:59 1301教室(教育研究棟 1街区 3階 1301)

[3a1601-04] 体育科教育学／口頭発表①

座長:米村 耕平(香川大学)

9:15 ~ 9:29

**[11教-口-02] バレーボールの授業におけるボール操作能力の指導方法の検討
使用するボールの種類を視点到***金森 晴香¹、高田 俊也¹ (1. 九州共立大学大学院 スポーツ学研究科)

バレーボールは、学習指導要領上、「役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防を展開すること」と「状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作りだすなどの攻防を展開すること」をねらいとし、学習内容が展開されている。

そこで、仲間と連携して「拾う、つなぐ、打つ」などの一連の流れで攻撃を組み立て、相手の陣形や返球によって生じるコート上の空間を攻める内容が行われる。また、味方や相手の状況に応じてボールに変化をつけたり、ねらった場所に打ち分けたりして、得点しやすい空間を作り攻撃し、それに対して仲間と連携して守るなどと攻防のゲーム様相が展開される。

したがって、状況に応じたボールのコントロールとその対応のための動きに着目させ、学習に取り組ませることが大切である。しかし、苦手や嫌いな人は、ボールの落下位置を予測し、指や手首、腕等の身体操作により、攻撃を有効に行うことができていないと考えられる。

これらを阻害するものが用具に対する恐怖心等の否定的感情である。

そこで本研究では、ビーチボールやソフトバレーボールのような軽量でかつ柔らかなボールを使用させることで、ボール操作技能の獲得や楽しさを味わわせることが可能となるかについて明らかにすることを目的とした。

その結果、授業前の学習態度や運動有能感の調査では、バレーボールに対して自信のない学生や、楽しさを味わえていない学生が多かったが、授業後には、積極的に取り組む学生、自信を持った学生が増えた。

したがって、素材や重さ、大きさが異なる様々なボールを使用することは、学生が好意的にバレーボールに取り組み、本来の楽しさを味わうことができる指導法の1つとして有効であると考えられた。

専門領域別研究発表 | 専門領域別：体育科教育学

2025年8月29日(金) 9:00 ~ 9:59 1301教室(教育研究棟 1街区 3階 1301)

[3a1601-04] 体育科教育学／口頭発表①

座長:米村 耕平(香川大学)

9:30 ~ 9:44

[11教-口-03] 卓球初心者指導におけるフォアハンドドライブ技術要素の評価基準の信頼性の検討

感覚経験型指導法を卓球指導場面に導入するための事前研究

*陳 仁溥¹、深見 英一郎¹ (1. 早稲田大学)

卓球指導における「感覚経験型指導法」の導入を目指し、初心者のフォアハンドドライブの技術要素（ツボ）とその評価基準の信頼性を検討した。ツボは筆者（中国国家一級運動員）と日本卓球協会公認コーチIV級が先行研究を参考に、「準備段階（構え動作・予測的移動）」「バックスイング段階（体重移動・ラケットの位置）」「スイング段階（前腕の回転・体幹の回転）」に分類した。評価基準の表現はスポーツ教育学を専門とする大学教員の助言を受け修正した。卓球学習者20名を対象に一点打ちと二点打ちの映像を撮影し、予測的移動は二点打ち、それ以外のツボは一点打ちで三段階評価した。各ツボは20球中、特定基準を満たす打球が10球以上であればその評点とした（例：構え動作で膝を適度に曲げ前傾姿勢をとったフォームでの打球が10球以上なら「3」）。評価は日中4名のコーチ（日本卓球協会公認コーチII・III級各1名、中国国家一級資格のコーチ2名）が担当し、事前に共通理解を図った。信頼性分析には、ICC（級内相関係数）のうち、評価者間の一致度を示すICC（2,1）を用いて分析した。その結果、構え動作(0.842)、予測的移動(0.898)、体重移動(0.850)、体幹の回転(0.811)は「良好」、ラケットの位置(0.698)と前腕の回転(0.690)は「可能」だった。ラケット位置のICC低下は、後方撮影によりラケットの振り幅が視認しづらかった点が要因とされる。前腕回転では、評価者の指導対象のレベル（初心者／熟練者）の違いにより、加速動作の基準に差が生じたと考えられる。今後は側面撮影の導入や、前腕加速の数値化による基準の客観化が課題である。

📅 2025年8月29日(金) 9:00 ~ 9:59 📍 1301教室(教育研究棟 1街区 3階 1301)

[3a1601-04] 体育科教育学／口頭発表①

座長:米村 耕平(香川大学)

9:45 ~ 9:59

[11教-口-04] 小学校中学年のゴール型ゲームにおける「転換局面」を対象とした学習の可能性

児童の思考・判断と技能発揮の関係から

*中西 紘士¹、谷山 響² (1. 広島修道大学、2. 広島市立井口小学校)

本研究は、小学校中学年のボール運動領域におけるゴール型ゲームにおいて、攻防の「転換局面」を対象とした学習の可能性について検討した。筆者らが開発をおこなった「ボウリングボール」を対象に、「転換局面」での思考・判断と技能発揮の関係についてGPAIを援用し求めた指標の分析に加え、それぞれの指標の相関関係を分析した結果以下の3点が明らかになった。

1点目は、第7時から第11時にかけて学級全体としてGP全体の学習成果が向上しており、特に「転換局面」に関する学習成果が向上した。2点目は、本教材についても宗野（2015）の述べている、「攻撃課題・守備課題は相互作用によって発展し、授業過程の中では揺らぎながら発展していく」可能性が示唆され、第9時から第10時にかけてパスとシュートなどの攻撃に関する学習成果が数値としては低下したが、これは守備に関する学習成果が向上したと推察された。3点目は、GPが低い児童は単に技能発揮ができていないのではなく、意思決定にも課題を抱えていると示唆された。また、GPの上昇のためにまずは、適切な意思決定ができる状況判断能力を高めていくことの必要性が挙げられた。

これらのことから、本研究で取り扱った教材において、中学年の児童が攻撃から防御、防御から攻撃の両方の「転換局面」において思考と技能発揮の関係には相関関係が認められ、適切な思考・判断の向上に有効な教材であることが示唆された。そのため、小学校中学年においても「転換局面」を学習の対象として取り扱う事が可能であることが示された。